

## fast と hard の意味拡張とその制約

—通時態と意味構造の考察を通して—

---

小笠原 清 香

---

### はじめに

ある意味が別の意味へと変化する時、現実にはどのような環境の中でその変化は引き起こされるのであろうか。意味変化とはこういった瞬間に起こるのであろうか。近年、意味論の分野において、意味変化とはメタファーおよびメトニミーの作用によって引き起こされるという意見が一般的となりつつある。<sup>1</sup>しかし個々の研究において、英語特有の現象、および品詞ごとに特有の変化には焦点が置かれず、通時的な変化の過程を網羅したテキストに基づく綿密な研究はいまだ十分になされていないと言わざるをえない。

本論考では、中英語期の文学テキストにおいて極めて多義的に用いられているにも関わらず、これまで語彙論および意味論の分野において十分に論じられることのなかった副詞 fast を中心に、意味変化が起きる際に働くメタファーおよびメトニミーの作用について検討する。また、fast と意味構造、語義発達の過程において非常に近似した性質を持つ副詞 hard との比較も踏まえ、中英語期と初期近代英語期における文学テキストを調査対象として多義語の性質について考察する。現在提唱されている意味変化における“unidirectionality”（「単一方向性」）という規則性について、通時的变化が示す史的事実と、意味の揺

れが生じる環境の分析から捉えなおし、副詞の意味変化が“bidirectionality”(「双方向性」)であることを論じる。さらに副詞の意味変化における変化の範囲について新たな意見を提示したい。

## 1. fast と hard の意味領域の近接性

初めに、*OED* の語義記述から、現代英語における副詞 fast と hard の語義と、これらの語の現代では廃用となった意味を概観し、この二つの副詞の近似した意味構造を見ていく。

### fast (*adv.*)

1. a. In a fast manner, so as not to be moved or shaken; *lit.* and *fig.*; firmly, fixedly. Often with stand, sit, stick, etc.  
     † to sit fast upon: to insist upon.  
     b. to sleep fast: to sleep soundly.  
     c. Expressing fixity of attention, effort, or purpose: Earnestly, steadily, diligently, zealously.  
     † d. Expressing vigour in action: Stoutly, strongly, vigorously. *Obs.*
2. a. With firm grasp, attachment, or adhesion; so as not to permit of escape or detachment; tightly, securely. (...)
3. In a close-fitting manner; so as to leave no opening or outlet. Often with additional notion of security.
4. a. Of proximity; *lit.* and *fig.* Close, hard; very near. Now only in *fast beside*, *fast by* (arch. or poet.), and with vbs. Expressing following, (...).  
     † 5. Closely, at once, immediately. *as fast as*: as soon as (...) *Obs.*
6. a. Quickly, rapidly, swiftly.
7. to live fast: a. to expend quickly one's vital energy; b. to live a dissipated life.

現代英語に残っている語義としては、第1義に挙げられている「固定」や「不動」の概念を表す“firmly”, “fixedly”、また古風な表現ではあるが、“fast by”といったコロケーションで空間的な近接を表す“close”, “hard”、そして第六義の「速さ」を表す“quickly”, “rapidly”, “swiftly”といった、「固定」、「近接」、「速さ」の概念を表す三つの語義に大別されるだろう。次に現在では廃用となって

いる語義に着目すると、第1義の下位区分cの項では、「注意力や努力などがしっかりと定まっている」という意味合いで、“earnestly”, “steadily”, “diligently”, “zealously”といった語義が説明されている。また第1義のdの項では、動作における活力を表す意味として、“stoutly”, “strongly”, “vigorously”といった意味が並ぶ。こうした語義説明から、現在は廃用となったものの、fastには以前、強意の副詞としての用法が存在したことが理解できる。

次に、副詞のhardの語義について、こちらも現代に残る意味と現在では廃れてしまった語義について概観する。<sup>2</sup>

### **hard(adv.)**

1. a. With effort, energy, or violence; strenuously, earnestly, vigorously; violently, fiercely. In early use, sometimes = intensely, exceedingly, extremely.
2. a. So as to bring or involve oppression, pain, trouble, difficulty, or hardship; severely; cruelly, harshly.
3. With difficulty, hardly; scarcely. to die hard: see die v.1 3.
4. Firmly, securely; tightly; fast. Now rare.
5. a. So as to be hard; to hardness. (Often qualifying a pa. pple. See also 8d.)
6. a. In close proximity, of time or place; close. hard upon (on), close before or after so as to press upon. Now chiefly in to run (a person) hard. See also hard by.

副詞のhardは、第1義の“strenuously”, “earnestly”, “vigorously”といった意味に代表される、強意の副詞としての意味が最も早い段階で使用された意味である。またこの第1義の「懸命に、熱心に、激しく」という意味から、こうした状況がある行為を行う際に「厳烈さ」や「困難」を伴うという意味へと発達し、第2義の“severely”, “cruelly”, “harshly”へと繋がっていく。さらに第3義では“die hard”の用例が挙げられており、「なかなか～しない」「困難を孕む」といった意味となっている。第4義、第5義では、「堅い・緊密な」といった形容詞における原義が副詞へと転移した“firmly”, “securely”、そしてより形容詞の意味に近い、物質の硬さを表す意味が並ぶ。最後に第6義は、主に“run a person hard”といったコロケーションで、「ある人のすぐ近くを走る」や、“hard upon”（「すぐ近くに迫って」）また“hard by”（「すぐ近くに」）という時間および空間的近接の意味となっている。

このように fast と hard の語義を概観すると、この二語には共通した意味合いが多く見受けられることに気がつく。どちらの語も本来は“firmly”という意味を持ち、強意の副詞としての用法、そして“by”を伴い空間および時間的近接の意味を有する。

次に中英語期の用法に焦点を当て、この二語の意味領域の近似性について *MED* の語義記述を概観する。

1. Of a state or position: (a) (stick) fast; (sit) tight or immovably; (stand) firm; (...)
2. With verbs of grasping, holding, tying, joining, fastening, closing, stopping up, etc.: (a) (grasp) firmly; (clasp) tightly, closely; (...)
3. With verbs of surrounding, enclosing, confining, imprisoning, fettering: (a) (enclose, bury) securely; (surround) closely; (...)
4. With verbs of fortifying, defending, besieging, besetting: (a) (fortify a place) strongly; (b) (defend, resist, struggle) stoutly, vigorously; (...)
5. With verbs of begging, praying, forbidding, promising, pledging: (a) (beg) earnestly; (pray) devoutly; (b) (forbid) strictly; (...)
6. With verbs of wishing, striving, trying, keeping busy: (a) (desire, woo) eagerly; (set one's heart on something) intently; (b) (strive, seek) eagerly; (...)
7. With verbs of emotion or attitude: (a) (love) dearly; (b) (wonder) greatly; (...)
8. With verbs of looking, listening, paying attention, learning, remembering: (a) (look, listen) intently, hard; (b) (keep in mind) firmly, steadily, well; (...)
9. As an intensive, with various verbs: (a) (strike stamp, knock) vigorously, hard; (b) (eat, sing, weep, play, talk, tell, lies, argue) steadily, hard, much; (give) freely, much; (prosper) greatly; (c) (sleep) soundly; ben faste on slepe(aslepe), be fast asleep; (d) (burn, rain, thunder, bleed) hard, much.
10. With verbs denoting a continuous movement or process: speedily, fast.
11. With verbs denoting a momentary action or the beginning or completion of an action: (a) quickly, instantly, immediately; faste anon; (b) (as) faste as, as faste that, as soon as.

fast の場合、*MED* における第 1 義はやはり “firmly” であり、物理的な状況を形容する意味となっている。そして第 4 義から第 9 義は、全て中英語期特有の強意の副詞としての用法である。<sup>3</sup> 中英語期において、例えば “sing fast” というコロケーションは、「高らかに歌う」、「熱心に歌う」、「心を込めて歌う」、また “eat fast” であれば「大いに食べる」という様に、fast は多種多様な動詞を修飾し、被修飾動詞により様々な解釈が可能となる、非常に広範な意味領域を持った副詞であった。*MED* では最後の第 10 義と第 11 義において初めて速度の度合いを表す “speedily” そして時間的近接を意味する “immediately” という意味が現れている。後の章で通時的意味変化について詳細に取り扱うが、こうした速さの度合い、そして時間的近接の意味は中英語期に新たに発達した語義である。<sup>4</sup>

次に、*MED* の hard の項を見る。

1. (a) Tightly, firmly, securely, close, fast; in close confinement; ~ bounden, constipated; ~ holding, tight-fisted, parsimonious; ~ set, obstinate, pertinacious; (b) with hardship, bitterly, sharply, severely, sternly, strictly, stringently, austere; (c) painfully, grievously.
2. (a) Violently, vigorously, strenuously, diligently, quickly; ~ travelling, hard-working; (b) with great emotion or concentration, deeply, urgently, vehemently, insistently, boldly; (c) completely, fully, very much; with adj.: very, extremely.
3. (a) With difficulty, scarcely; ~ hearing, hard of hearing, ~ opening, hard to open; (b) in a manner hard to understand, elaborately, obscurely.
4. In close proximity of time or place, close.

(下線引用者)

*OED* と異なり、*MED* では形容詞の原義が副詞へと転移した “firmly”, “securely” といった意味を第 1 義としているが、その他は現代英語の意味と大きく異なることはなく、第 2 義に強意の副詞としての語義、第 3 義が「～し難い」、そして第 4 義は空間および時間的な近接を表す語義となっている。しかし *MED* の語義説明において非常に興味深い点が一つ存在する。それは、詳細な語義説明を施す *MED* の特徴によって、第 2 義の語義区分の中で “quickly” という、現代英語の hard には含まれない語義が説明されていることである。つまり fast

と同様に、hard が強意の副詞として使用された際には、被修飾動詞の意味によっては「速く」という語義で解釈ができる用例があるということがこの語義説明から推断される。

## 2. 先行研究について

一見すると fast と hard はそれぞれに異なる意味を持つ副詞であるにもかかわらず、*OED* および *MED* における語義を詳細に見ていくと、この二語は相互に共通する意味領域を持つことが分かる。従来、意味論および中英語の文法書において、これらの語はどのように説明されてきたのか、とりわけ fast の意味変化を扱う先行研究に注目しつつ、その妥当性について検討する。<sup>5</sup>

### 2.1 強意の副詞としての解説

古典的な中英語の文法書であるタウノ・ムスタノーヤ (Tauno F. Mustanoja) の *A Middle English Syntax* では、副詞の項の下位項目 “Intensifying Adverbs” (強意の副詞) において 38 語の副詞が列記され、その中の一つとして fast と hard が挙げられている。以下にムスタノーヤによる解説を引用する。

‘FAST(E)’. – The Original meaning of this adverb is ‘immovably, firmly.’ In many cases its original modal function passes into an intensifying use, as in *fast asleep* and *fast by* (e.g., *the Tabard faste by the Belle*, Ch. CT A Prol. 719), and in conjunction with verbs (*she faste Ay biddyng in hire orisons ful faste*, Ch. CT G SN 140). (318)

‘HARD(E)’. – As a verbal intensifier, in the sense ‘greatly, extremely,’ this adverb occurs from OE on (cf. *him hearde þyrste*, Ælfric Hom. II 256): – *we mazen beon epe of-dredde and herde us adrede* (Poema Mor. 157). *Hardly* does not occur as an adverb of degree until the 16<sup>th</sup> century. (320)

(下線引用者)

このように上掲書では、fast の場合、“modal function” つまり「様態を表す機能」が強意の副詞としての用法へと移行した、と述べられているのみであり、hard

についても OE 以来の動詞にかかる強意語であるとしか説明されていない。

## 2.2 “firmly”から“rapidly”への発達について

次に、fast の原義である “firmly” から “rapidly” への発達について説明した二つの先行研究を検討する。一つ目として、ヘンリー・ブラッドレー (Henry Bradley) は fast の語義発達を以下のように説明している。

The primary sense of fast is ‘firm, immovable.’ But the notion of firmness, which appears in the expression ‘to stand fast,’ was developed, by an easy transition, into that of strength and unwavering persistence in movement. Hence it became possible to speak of ‘running fast.’ The adverb in this connection originally meant ‘without slackening’; but when it had acquired this meaning, it was natural that it should pass into the modern sense ‘rapidly.’ (162)

(下線引用者)

ブラッドレーの指摘によれば、本来の fast の意味は、“firm”, “immovable” であったが、この “firmness” の概念が、「動作の揺るぎない一貫性」を表し、ゆえに “run fast” 「速く走る」と解釈できるようになった。つまり、“run fast” は本来 “run without slackening” 「たゆまずに走る」という意味であったが、こうした意味が自然に現代の “rapidly” へと変化したという見解である。

次に意味変化を体系的に詳述したグスタフ・スターン (Gustaf Stern) の浩瀚な意味論における説明を検討する。

The permutations of adverbs are often dependent on the meanings of the governing verbs, like those of adjective on the nouns. ME *faſte* originally means ‘vigorously, energetically’. It was employed to intensify verbs denoting some kind of physical action and was one of the most common intensifiers in ME. In connection with verbs of motion, as he *renneth faſte* ‘he runs vigorously, with energy’, the adverb took on the meaning ‘swiftly’, since anyone who runs with all his might will also get over the ground swiftly. (377)

(下線引用者)

スターンの意見は、副詞の意味変化は修飾する動詞により生じ、fast(e) は ME でも頻繁に用いられた強意の副詞の一つであったが、これが動作動詞である“run”などを修飾した際に、「力強く精一杯走る」ことが「速く走る」という意味に繋がり、こうした用例から「速く」という意味が派生したというものである。<sup>6</sup>

二人の研究者による先行研究を比較したが、両者ともに、動詞との共起性によって副詞の意味は変化し、fast の場合、“rapidly”の意味は“run fast”といった動作動詞とのコロケーションから生まれたと考えている。確かに中英語期の強意の副詞としての用法は、“firmly”から“rapidly”が派生する一つの要因であったろう。しかし、そうした動詞との共起性のみが「速く」という新たな意味の派生原因であったのだろうか。OED は原義である“firmly”から“rapidly”が派生したことに關して、語義説明の中で以下のような解説を付与している。

*OED*, s.v. *fast*, adv., 6. a. Quickly, rapidly, swiftly.

For the development of this sense from the primary sense ‘firmly’, cf. 1d, 4, 5, and expressions like ‘to run hard’.

このように OED では、原義である“firmly”から“quickly”, “rapidly”, “swiftly”という意味への発達については、第 1 義の d の語義、そして第 4 義と第 5 義を参照するように説明されている。また、“to run hard”といった表現との関連性についても言及している。ここで重要な点は、第 6 義“rapidly”の派生理由として、OED では第 1 義の d、“stoutly”, “strongly”, “vigorously”といった強意の副詞の用法のみならず、第 4 義の“close”, “hard”, “very near”などの空間的近接を表す語義や、第 5 義の“closely”, “at once”, “immediately”という時間的近接の意味との相互関連性を指摘していることである。ここで、もう一つ看過してはならない点がある。それは OED が示す“to run hard”というコロケーションにおける hard の語義についてである。一見するとこの hard を我々は「懸命に」という意味で解釈し、やはり強意の副詞としての用法から“rapidly”の意味が派生したと捉えがちである。<sup>7</sup>しかし、OED において“run”と“hard”が共起する例は、唯一副詞 hard の項の第 6 義においてである。

*OED*, s.v. *hard*, adv., 6.a.

In close proximity, of time or place; close. *hard upon (on)*, close before or



after so as to press upon. Now chiefly in to run (a person) hard.

この第6義は hard の近接の意味の項であり、“run a person hard” といった場合、「ある人の近くを走る、ある人に迫って走る」という意味になることが理解できる。

このように、*OED* の記述を正確に読み解くと、“rapidly” という意味の派生に空間および時間的近接の概念が関わっていることは明らかである。しかし、*OED* ではこれらの語義の相関性についてこれ以上の情報を得ることはできない。空間および時間的近接の概念と、迅速の概念はいかに結びついているのだろうか。

### 2.3 意味変化における“unidirectionality”の議論：「速く」から「すぐに」

ここまで fast の “firmly” から “rapidly” への意味発達について述べられた先行研究を比較したが、最後に物理的動作における〈速さ〉を表す「速く」という意味と時間的な〈近さ〉を表す「すぐに」という意味の関連性について、スターンによる見解を検討する。

The change to be investigated is that from 'rapidly' to 'immediately' occurring in a number of English adverbs. The change may be illustrated by the following quotations:

- I. He wrote quickly.
- II. When the king saw him, he quickly rode up to him.
- III. Quickly afterwards he carried it off.

This is a typical permutation, where the change takes place in phrases permitting a double interpretation. In I, the verb is imperfective, and the adverb means ‘rapidly’. In III, the verb is apprehended as punctual (perfective), and the adverb means ‘immediately’ (swiftness in time), no attention being paid to the circumstance that the act must necessarily take some time to perform.

In II, the meaning of the verb may, according to circumstances and context, be apprehended as imperfective, denoting the progress of the action, or as perfective,

tive, denoting the action as a unit. In the former case, the adverb means 'rapidly', as in I. In the latter case, it means 'immediately', as in III. Phrases of type II occur especially when to an otherwise imperfective verb, is added a word stating the purpose or end of the action, so that it is limited in time. If a person rides rapidly up to another, the action is completed within a short space of time. The equivocal instances thus do not represent a separate shade of meaning, but the adverb may be interpreted either in one way or the other, either as I or as III.

... independent development of the two meanings, sometimes occurs, as for instance in fast, which is therefore left aside in the following discussion, but as far as I have been able to see, not in any other of the adverbs mentioned here. It is of course necessary to investigate the whole history of each word in order to ascertain how the sense 'immediately' has arisen. (*Meaning* 185-6) (下線引用者)

スターンはある種、語用論的観点から、「速く」から「すぐに」への単一方向の意味発達を主張している。<sup>8</sup>つまり、彼の見解では、引用中の最初の用例である“He wrote quickly.”では、“wrote”が“imperfective”（非完了相）な動詞であるため、“quickly”はその動作の様態を説明する「速く」という意味になる。一方、三番目の用例、“Quickly afterwards he carried it off.”においては、動詞が構成している“carried it off”という連語表現は、“perfective”（完了相）であるから、その行為を遂行すること自体にある程度の時間が要されることには特別な注意は払われず、ゆえに一連の行為全体が“quickly”によって修飾を受け対象とされるため、この“quickly”は「すぐに」という意味で解されると述べている。“If a person rides rapidly up to another, the action is completed within a short space of time.”という一文に示されているように、スターンはこうした思考の経緯を“rapidly”から“immediately”への単一方向の派生の理由として考えている。<sup>9</sup>しかし、fastに関しては、「速く」から「すぐに」という単一方向の派生ではなく、この二つの意味は別々に派生したと説明しており、彼の提唱する規則性には当てはまらない例外として議論の対象から外している。<sup>10</sup>そして、その他の類義語には、そうした別々の意味派生は認められず、みな「速く」から「すぐに」という意味変化の発達をとげた結論づけている。以下の表3はスターンがこうした単一方向の意味変化を示すため、「速く」という意味を持つ類義語における各語義の初出年を並べたものである。<sup>11</sup>

表 3

	Sense I 'Rapidly'	Sence II 'Rapidly/immediately'	Sence III 'Immediately'
<i>Hrædlice</i> .....	OE	OE	OE
<i>Hrape(Rape)</i> .....	OE	OE	OE
<i>Ardlice</i> .....	OE	OE	OE
<i>Lungre</i> .....	OE	OE	OE
<i>Oflice</i> .....	OE	OE	OE
<i>Sneome</i> .....	OE	OE	OE
<i>Swipe</i> .....	OE	OE	1175
<i>Swiftly</i> .....	OE	OE	1200
<i>Caſlice</i> .....	OE	OE	1370
<i>Swift</i> .....	OE	1360	1300? 1400?
<i>Georne</i> .....	OE	1290	1300
<i>Hiꝛndliche</i> .....	1200	1200	1200
<i>Quickly</i> .....	1200	1200	1200
<i>Smartly</i> .....	1290	1300	1300
<i>Snelle</i> .....	1300	1275	1300
<i>Quick</i> .....	1300	1290	1300
<i>Belife</i> .....	1200	1200	1200
<i>Nimbly</i> .....	1430	1470	1400
<i>Rapely</i> .....	1225	1300	1325
<i>Skete</i> .....	1300	1300	1200
<i>Tite</i> .....	1300	1350	1300
<i>Wight</i> .....	1300	1360	14th cent.
<i>Wighily</i> .....	1350	1350	1300

(Meaning 188)

スターンは“rapidly”から“immediately”が派生することを裏付けるために、以上の23語の副詞と、各語における、I「速く」、II「両義に解釈できるもの」、III「すぐに」という三つの意味の初出年を示している。そしてこの“rapidly”から“immediately”の派生について、さらに時代性という問題にも触れながら、以下のように結論づけている。

English adverbs which have acquired the sense 'rapidly' before 1300, always develop the sense 'immediately'. This happens when the adverb is used to qualify a verb, the action of which may be apprehended as either imperfective or perfective, and when the meaning of the adverb consequently is equivocal: 'rapidly/immediately'. Exceptions are due to the influence of special factors.

(Meaning 190) (下線引用者)

スターンは1300年以前に、“rapidly”という意味を得た副詞は決まってその後“immediately”という意味を発達させていると述べている。しかし、表3における23語の副詞における調査の中には、明らかに“rapidly”と“immediately”の初出年代が同時期であるもの、そして“nimble”, “skete”, “wightly”の三語は、この表において、むしろ“immediately”の初出年が先である。こうした少数の語において初出年が完全に把握しきれないことを、テキストの不足、および不在の状況に起因しているとして、あまり大きな問題とは捉えず、依然として思考の過程における方向性、つまり語用論的側面から、「速く」から「すぐに」という意味派生の単一方向性を主張している。

近年では、このスターンによる議論をエリザベス・トローゴット (Elizabeth C. Traugott) とリチャード・ダッシャー (Richard Dasher) らは、以下のように引用している。

A special interest of Stern's was in the type of change evidenced by RAPIDLY>IMMEDIATELY. ... Most importantly for our purposes, he identified this as a change that was a “permutation”, that is, a metonymy leading to a new meaning. He also showed that it was implausible for the reverse change to take place: “it is evident that if a person rides rapidly up to another, the action is soon completed; but we cannot reverse the argument and say that if a person soon rides up to another, then the action is also rapidly performed” (ibid. p. 186). This is an argument for unidirectionality. (67) (下線引用者)

本書は後にスターンの研究に対し、個々の単語に関する通時的な調査に欠いていると批判的な態度もとっているが、しかし彼が提唱した“rapidly”から“immediately”が派生するという意味変化における単一方向性に関しては、批判を加えることなく、これは意味変化における“unidirectionality”、「単一方向性」であるとして、この考えに同意し、スターンの研究を彼らの議論に取り入れている。しかし、この意味変化における「単一方向性」という性質は、はたして変化の実態に即したものであるのだろうか。

### 3. fast と hard の通時的意味変化

第一章では fast と hard の意味領域の近似性について OED および MED の記

述に基づき検証したが、本章ではこれらの語の通時的意味変化について、個々の語義における *OED* の初出年代を追いながら考察する。表1は *fast*、表2は *hard* の形容詞と副詞の意味変化を、*OED* における初出年代順に並べたものである。形容詞と副詞は相互に意味の転用が起きやすく、密接な関連性があるため、表においては形容詞と副詞、双方の意味変化を時系列上に並べている。

*fast* の原義は c888 年、c900 年の項にあるように、形容詞、副詞両方において、「firmness」の概念を表す意味である。c1200 年の副詞の用例では、この原義が精神的な集中力などの形容に用いられ、「earnestly», “steadily”, “diligently” といった意味が派生している。<sup>12</sup> これらの意味と同時期に、副詞 c1205 年では「ぴったりと、隙間やはけ口がなく」といった空間的近接につながる〈物理的密着〉を表す語義、そしてこの意味とは別にもう一つ、“rapidly” という〈速さ〉を表す語義が生まれている。また c1275 年では “close”, “hard” といった〈空間的近接〉の意味、そして a1300 年では “closely”, “at once”, “immediately” といった〈時間的な近接〉を表す意味が派生している。

初出年代の調査では、複数の語義がほぼ同時期に表れており、また各語義の初出年代の時間的間隔が大きいいため、意味発達の順序は明確に特定できない。明らかなことは、*fast* は “firmly” が原義であり、1200 年ごろに物理的密着を表す「ぴったりと」という意味と、「速く」という速度の度合いを表す意味がほぼ同時に現れていることである。確かに、「すぐに」という時間的近接の意味の初出は a1300 年であり、「速く」という意味の初出年 (c1205 年) から少し離れており、このことは一見、スターンやトロゴットらが主張するような「速く」から「すぐに」への単一方向の発達を裏付けるように思われる。しかし、「速く」と「ぴったりと」という物理的密着の意味がほぼ同時に現れていたことに着目すれば、むしろ c1275 年に「近くに」という空間的近接の意味が現れ、「すぐに」という時間的近接の意味の出現と時期が近いという事実注目すべきであると言える。つまり空間および時間的な〈近接〉の意味と〈迅速〉の意味の関連性がこうした初出年の時系列からも浮かび上がるのである。

*hard* は、本来は形容詞における物質が「堅い、堅固な、緊密な」といった原義から、この意味が人の精神状態を形容し、やがて「感動しない、頑固な、無常な」といった意味が派生する。副詞では、c1000 年の例にあるように、初めの意味は強意の副詞の意味であることが分かる。そして c1205 年では、形容詞の意味として古英語から存在するように、「難しさを孕んだ」という意味で “severely”, “cruelly”, “harshly” といった語義が派生している。また、a1225 年で

表 1 Diachrony of *fast*

		adverb / adjective
adv.	c888	With firm grasp, attachment, or adhesion; so as not to permit of escape or detachment; tightly, securely. Often with <i>bind</i> , <i>hold</i> , etc. <i>lit.</i> and <i>fig.</i>
	c888	Firmly fixed in its place; not easily moved or shaken; settled, stable. <i>Obs.</i> or <i>arch.</i> exc. as said predicatively of something fixed as in a socket (e.g. a nail, a post), where the sense approaches 4.
adv.	c900	In a fast manner, so as not to be moved or shaken; <i>lit.</i> and <i>fig.</i> ; firmly, fixedly. Often with <i>stand</i> , <i>sit</i> , <i>stick</i> , etc. † <i>to sit fast upon</i> : to insist upon.
	c900	· In immaterial sense; <i>esp.</i> Of a person, his attributes, feelings, etc.: Not easily turned aside, constant, firm, steadfast. Now only in <i>fast foe</i> ( <i>arch.</i> ), <i>fast friend</i> ; in the latter the <i>adj.</i> is commonly apprehended in sense 4. · † Of a fortress: Strong. Of a place or district: Secure against attack or access. <i>Obs.</i> Cf. <i>fastness</i> .
	c1000	· Firmly or closely knit together, compact, dense, solid, hard. <i>Obs.</i> exc. <i>dial.</i> · Constipated; costive. <i>Obs.</i> exc. <i>dial.</i>
	c1175	Close-fisted, mean, niggardly. <i>Obs.</i>
adv.	c1200	· Expressing fixity of attention, effort, or purpose: Earnestly, steadily, diligently, zealously. · <i>to sleep fast</i> : to sleep soundly.
adv.	c1205	· In a close-fitting manner; so as to leave no opening or outlet. Often with additional notion of security. · Quickly, rapidly, swiftly.
adv.	c1275	Of proximity; <i>lit.</i> and <i>fig.</i> Close, hard; very near. Now only in <i>fast beside</i> , <i>fast by</i> ( <i>arch.</i> or <i>poet.</i> ), (...)
adv.	1297	† Expressing vigour in action: Stoutly, strongly, vigorously. <i>Obs.</i>
adv.	a1300	† Closely, at once, immediately. <i>as fast as</i> : as soon as (cf. 6). <i>Obs.</i>
	a1300	Of action, motion, or progress: Quick, swift. Hence of an agent: (a) Moving quickly; (b) Imparting quick motion to something. <i>fast and furious</i> : (...)
	c1305	Of a door, window, etc.: Close shut, bolted, or locked. Also, <i>to make</i> (a door, etc.) <i>fast</i> .
adv.	c1310	† <i>fig.</i> Of a command or prohibition: Strictly.
	c1340	<i>to make fast</i> : to bind, connect, or fix firmly. In nautical use also <i>absol.</i>
	1400	Firmly attached to something else; that cannot easily escape or be extricated; fixed to the spot; <i>lit.</i> and <i>fig.</i> Said both of persons and things.
adv.	c1420	Readily, with alacrity. <i>Obs.</i> exc. in colloq. phrase <i>fast enough</i> .
adv.	1481	† Of defence or concealment: Securely. <i>Obs.</i>
	c1510	Gripping, tenacious. Const. <i>of</i> . <i>Obs.</i> exc. in <i>to take fast hold</i> ( <i>of</i> ).
	1522	† Pleonastically. <i>fast and sure</i> : well assured, certain. <i>Obs.</i>
adv.	1526-34	With passive notion: So as to be unable to move. <i>to stick fast</i> : often <i>fig.</i> to be nonplussed, unable to get any further.
	a1568	Of style: Compact, terse. <i>Obs.</i>
adv.	1583	<i>fast upon</i> or <i>fast on</i> : near upon (a specified quantity). Cf. Ger. <i>fast</i> almost. <i>Obs.</i> exc. <i>dial.</i>
adv.	1591	In quick succession; one close upon another.
	1592	† Of sleep: Deep, sound, unbroken. Of persons: = <i>fast asleep</i> . <i>Obs.</i> exc. <i>dial.</i>
	1658	Of a colour: That will not quickly fade or wash out; permanent. Also <i>fast-colour</i> attrib.
	1671	<i>Mining</i> . a. In <i>fast country</i> , <i>fast ground</i> , applied to that part of the bed of minerals which lies next the rock (cf. 4)
adv.	1699	<i>to live fast</i> : to live a dissipated life.
adv.	a1700	<i>to live fast</i> : to expend quickly one's vital energy;
	1706	Frozen. N. Amer. ? <i>Obs.</i>
adv.	1720	† quasi- <i>int.</i> (See quot.) <i>Obs.</i>
	1745	a. Of persons: Living too fast (...); extravagant in habits; devoted to pleasure, dissipated (...) b. Often applied to women in milder sense: Studiedly unrefined in habits and manners, disregardful of propriety or decorum. c. Of language, etc.: Characteristic of 'fast' people. d. Of a place: Inhabited or frequented by 'fast' people.
	1815	Coming in quick succession. <i>freq.</i> in Shelley; otherwise <i>rare</i> .
	1820	<i>Whale-fishing</i> . Of the whale: Having a harpoon sticking in it. Also of the boat, to which the harpoon is attached. Cf. <i>fast-boat</i> , <i>-fish</i> , <i>-ship</i> .
	1840	Of a clock or watch: Indicating a time more advanced than the true time.
	1857	Adapted to, or productive of, quick movement (...)
	1863	<i>fig.</i> In a perplexity or difficulty; 'in a fix'. <i>to be fast for</i> : to be in want of. <i>Dial.</i>

表 2 Diachrony of *hard*

		adverb / adjective
	<i>beowulf</i>	A primary adjective expressing consistency of matter: That does not yield to blows or pressure; not easily penetrated or separated into particles; firm and resisting to the touch; solid, compact in substance and texture. The opposite of <i>soft</i> .
	<i>beowulf</i>	Not easy to wear out or cause to give way; capable of great physical endurance and exertion; formerly, <i>esp.</i> , hardy and bold in fight. (...)
	<i>beowulf</i>	Of a nature or character not easily impressed or moved; obdurate; unfeeling, callous; hard-hearted.
	<i>beowulf</i>	Carried on or performed with great exertion, energy, or persistence; unremitting; (of study) close; involving great labour or effort; vehement, vigorous, violent. Qualifying a noun of action, and akin to <i>hard adv.</i>
	971	Difficult to bear or endure; not easy to suffer, put up with, or consent to; pressing severely; severe, rigorous, oppressive, cruel. <i>hard case</i> : applied to a sailing-ship on which conditions are rough; <i>hard lines</i> : (...)
	971	Intense in force or degree; strong, deep, profound. <i>Obs.</i>
	a1000	Of things, actions, etc.: Characterized by harshness or severity; unfeeling, cruel, harsh, rough.
<i>adv.</i>	c1000	With effort, energy, or violence; strenuously, earnestly, vigorously; violently, fiercely. In early use, sometimes = intensely, exceedingly, extremely.
	c1000	Of persons: Harsh or severe in dealing with any one. Const. († <i>to</i> ), <i>on</i> , <i>upon</i> .
	c1200	Difficult to do or accomplish; not easy; full of obstacles; laborious, fatiguing, troublesome.
<i>adv.</i>	c1205	So as to bring or involve oppression, pain, trouble, difficulty, or hardship; severely; cruelly, harshly. See also <i>hard-set</i> 1.
<i>adv.</i>	a1225	Firmly, securely; tightly; fast. Now <i>rare</i> .
<i>adv.</i>	13 ..	Of the weather, wind, snow, rain, frost, etc.
	c1300	Of the subject of an action: Not easily able or capable; having difficulty in doing something. Const. <i>inf.</i> , or <i>of</i> with <i>n.</i> denoting action or faculty. <i>Obs. exc. in hard of hearing.</i>
	a1340	Difficult to do or accomplish; not easy; full of obstacles; laborious, fatiguing, troublesome.
	1340	† Firm, steadfast, unyielding. <i>lit.</i> and <i>fig.</i> <i>Obs.</i>
<i>adv.</i>	1340	So as to be hard; to hardness. (...)
	1362	Not easily moved to part with money; stingy, niggardly, 'close'. Cf. <i>hard-fisted</i> .
	1382	Difficult to penetrate with the understanding; not easy to understand or explain.
<i>adv.</i>	1382	With difficulty, hardly; scarcely. <i>to die hard</i> : see <i>die</i> v.1 3.
	1390	Difficult to bear or endure; (...) b. Of time.
	c1400	† <i>to the hard...</i> (with various <i>ns.</i> ): to the very... Also, <i>at (the) hard...</i> ( <i>obs.</i> ). † <i>at hard edge</i> , at close conflict, (...)
<i>adv.</i>	c1410	In close proximity, of time or place; close. <i>hard upon (on )</i> , close before or after so as to press upon. Now chiefly in <i>to run</i> (a person) <i>hard</i> . See also <i>hard by</i> .
	1513	Having the aspect, sound, etc., of what is physically hard (sense 1); harsh or unpleasant to the eye or ear; (...)
<i>adv.</i>	1530	<i>to go hard with</i> (a person): to fare ill with him, to prove to his serious hurt or disadvantage; with <i>but</i> , introducing a statement of what will happen unless prevented by overpowering difficulties. See also <i>go</i>
<i>adv.</i>	1549	<i>Naut.</i> Expressing the carrying of an action to its extreme limits, as in <i>hard-a-lee</i> , <i>hard-a-port</i> , <i>hard-astarboard</i> , <i>hard-a-weather</i> : see the second elements. (...)
<i>adv.</i>	1577	On a hard surface, floor, etc.
<i>adv.</i>	1583	† With an uneasy pace. <i>Obs.</i>
	1588	Difficult to deal with, manage, control, or resist. † <i>too hard for</i> , too much for, more than (one) can manage. (...)
	1612	Strict, without abatement or concession.
	c1620	<i>Phonetics.</i> Popularly applied to certain consonants: <i>a.</i> to the letters <i>c, g</i> , when they have their original 'back' or guttural sounds ( <i>k, g</i> ), as distinguished from the palatal and sibilant sounds ( <i>tʃ, ts, s, dʒ</i> , etc.) into which they have passed in various languages; (...)
	1660	Applied to water holding in solution mineral, especially calcareous, salts, which decompose soap and render the water unfit for washing purposes.
	1663	Acting or carrying on one's work with great energy, exertion, or persistence; unremitting, persistent. (...)
	1687	† Undigested (in the stomach). <i>Obs.</i>
	1706	Of money: In specie as opposed to paper currency.
	1709	† <i>to die hard</i> : to die obdurate or impenitent. <i>Obs.</i> See also <i>hard adv.</i> 3, <i>die</i> v.1 3.
<i>adv.</i>	1711	† Parsimoniously. <i>Obs. rare.</i>
	1727-52	Said of the pulse when the blood-tension is high, so that the artery feels firm and not easy to be compressed.
	1747	Not easily moved by sentiment; of a practical, shrewdly intelligent character. See also <i>hardhead</i> .
	1789	Intoxicating, spirituous, 'strong'. <i>colloq.</i> orig. <i>U.S.</i>
<i>adv.</i>	1850	Very, extremely. <i>U.S. colloq.</i>

は、形容詞における原義が転移したと考えられる、「堅く、しっかりと」といった意味が現れる。c1382年では、“die hard”というコロケーションで頻繁に用いられるような、「なかなか～しない」といった意味が出現している。そしてc1410年では、fastと同様にhardも「接近して」「すぐ近くに」といった時間および空間的な〈近接〉の意味が生まれている。

このようにhardの場合、ムスタノーヤが説明していたように、OEから強意の副詞として用いられ、MEDではこの強意の副詞における語義の一つとして、「速く」という語義も説明されていた。fastの場合は時間的接近の意味と空間的接近の意味はそれぞれ年代を別にして現れたが、hardの場合、c1410年にこの両義が同時に表れている点が時系列上では確認できる。

ここで興味深い点は、どちらの語も結果として「固定」、「強意」、「近接」、そしてhardの場合はMEDの記述から分かるように、中英語期の一時的な意味にとどまったものの、「迅速」といった四つの概念を持つ意味が発達し、共通した意味の広がりを持ったことである。しかし、重要な点は、初出年の調査では、「速く」から「すぐに」の単一方向の語義発達は必ずしも裏づけられない。fastの場合であれば、「速く」と「ぴったりと」物理的密着の意味、そして「近く」という空間的接近の意味と「すぐに」という時間的接近の意味のほうに密接な関連性を見いだせる。そしてhardの場合は「強意」の意味と「速く」という意味、そして「空間的接近」と「時間的接近」の意味の関連性を、通時的变化は示しているのである。

#### 4. 異なる意味の間に共有される概念領域

ここまでfastとhardの通時の意味変化を概観したが、唯一hardの場合は、「速く」といった意味のみが定着しなかったものの、この二語が歴史的な意味発達の過程において“firmly”, “tightly”といった固定の概念を表す語義から、物理的な密着状態、そしてこの密着状態は空間および時間の接近の意味にもつながり、さらにどちらの語も、本来の語義である“firmness”の概念が物理的な動作や、精神的意味合いを強める役割として用いられると、強意の副詞としての意味を持つことが分かった。そしてfastの場合は「速く」という意味もこの強意の副詞の意味から、そしておそらくOEDが示すように空間的な接近の意味からも派生していることが推測できるが、これらの二語における異なった意味の間には、どのような関連性があるのだろうか。その関連性を曖昧な定義や憶測を排



し、具体的に論証することが必要である。

本章では、fast、hard どちらの語においても意味変化が大きい中英語期から初期近代英語期の用法について、“firmly”, “tightly” といった「しっかりと、固く」という意味と、“close” という「空間および時間的近接」、「速く」といった迅速の意味、そして「強意」、これら四つの語義の関連性を検討する。多義的な解釈が生まれる用例に着目することで、意味の曖昧化の背景にある諸要因を考察し、複数の意味領域をそれぞれ関連づけているメタファーとメトニミーの働きを明らかにする。<sup>13</sup>

#### 4.1 「しっかりと、堅く」、「近くに」そして「強意の副詞」の関連性

まず初めに、“tightly/firmly”、“close”そして「強意の副詞」の表現の間に存在するメタファーによる意味の関連性を明らかにする。以下は *Piers Plowman* における fast が比喩的に用いられた用例の一つであるが、この例を通して我々が物理的な意味領域を精神的な意味領域に関連させて様々な事柄を表現しているというメタファーを介した言語活動の一側面を理解することができる。

‘A, madame, mercy,’ quod I, ‘me liketh wel youre wordes,  
A the moneie of this molde that men so faste holdeth –  
 Telleth me to whom that tresour appendeth.’

(*Piers Plowman* 1. 41-43)

「奥がたさま、ありがとうございます。お言葉を肝に銘じます。  
 ところで、この世の人々が執着する、お金という  
 財宝はいったいだれのものなのか教えてください。」

(下線引用者)

“hold fast” というと、そのほとんどが物理的な動作の意味合いであり、「しっかりと握りしめる」といった意味になるが、この例は、“hold fast” という一つのコロケーションの中でも、比喩的に解釈するほうが妥当な例である。<sup>14</sup> この個所では“hold”の目的語が“money”であり、そして主語は“men”(people)となっている。直訳をすれば「人々がしっかりと握りしめるお金」といった意味になるが、明らかに「しっかりと握りしめる」という物理的な「固定」を表す意味

よりも、「人々が執着するお金」という心理的態度を表す意味合いほうが、この説教の場面においては前後の文脈にそぐう意味合いとなる。この用例では、物理的な意味領域と心理的な意味領域が互いに異なる意味領域であるものの、メタファーを介して相互に交換可能な意味領域として存在することが分かる。

次は“firmly”「固く、しっかりと」の意味と「空間的近接」、そして「強意の副詞の用法」、この三つの意味領域の関連性について *Miller's Tale* における hard の用例から検証する。

And prively he caughte hire by the queynte  
 And seyde, “Ywis, but if ich have my wille,  
 For deerne love of thee, lemman, I spille.”  
 And heeld hire harde by the haunchebones  
 And seyde, “Lemman, love me al atones,  
 Or I wol dyen, also God me save!”

(*The Canterbury Tales*. Mil.3276-81)

ニコラスは彼女の隠し所をそっと押さえて  
 言った。「本当に、僕の気持が叶わなければ、  
 奥さん、あなたに恋焦がれて死んでしまいます。」  
 それから彼女のお尻をしっかりと抱いて、  
 言った。「奥さん、すぐに僕を愛してください。  
 さもないと、きっと、僕は死んでしまいます。」

(下線引用者)

この例では、下線部の“heeld”(hold)にかかる強意の副詞として hard を捉えることができるが、同時に“by the haunchebones”というニコラスが抱きしめた「おしりのところ」という場所を表す前置詞句を作っている前置詞“by”を hard は修飾し、空間的な近接の状態をより強める働きをしているとも考えることができる。この例から明らかになることは、何かを強く握りしめるということは、物理的な動作の対象との空間的距離が近く、そして同時にその動作が行われる際に働く力の強度も含意されるということが分かる。この用例では「固定」と「空間的近接」がメトニミーを介して、「空間的近接」と「強意」はメタファーを介して相互に交換可能な意味領域であることが示されている。

## 4.2 「速く」と「すぐに」の関連性

本節では、“rapidly”という速度を表す意味と、“immediately”という時間的な近接を表す意味の相互関連性について、“go”という動詞が用いられた用例に着目することで、この二つの意味、概念領域が相互に交換可能であることを示していく。動詞“go”とfastが共起する際、これまでの調査ではほぼ決まってfastは「速く」といった語義に訳される例が圧倒的であった。しかし、以下に引用する *Man of Laws Tale* におけるfastの用例は、速度の速さとともに、時間的な近接も表しうる表現として、非常に稀であり、また意味領域の考察において重要な一例である。

But of my tale make an ende I shal;  
The day goth faste, I wol no lenger lette.  
 This glade folk to dynere they hem sette;

(*The Canterbury Tales* ML1116-8)

だが私の話をそろそろ終わりにすることにしよう。  
日は速やかに進んで行く、もうぐずぐずできない。  
 この喜ぶ人々は食事についた。

(下線引用者)

ここでは“The day”が動詞“go”の主語となっているため、「日が速やかに進む」といった臨場感の漂う表現としても解釈が可能であるが、「日はすぐにすぎてしまう」というように、“soon”や“immediately”といった意味で解しても、文脈から大きく逸脱した訳とはならない。この例が示すことは、“rapidly”から“immediately”という意味変化の単一方向性ではなく、この二つの意味領域が認知的枠組みの中ではメトニミーの作用、つまり「はやく」という共通した概念領域における類推の作用によって、相互に交換可能な意味領域であるということだ。

## 4.3 「空間的近接」と「時間的近接」の関連性

空間用語から時間用語が発達するという議論はトローゴット (1978) をはじ

め、認知意味論および文法化の側面において盛んに論じられる事象ではあるが、ここでは空間用語と時間用語が、意味変化においては空間から時間への単一方向に変化するのではなく、相互に交換可能な意味領域であることを、多義的な解釈を生む例について検討することで明らかとしていきたい。<sup>15</sup>

And thus he fleeth as faste as evere he may.

The nyght was short and faste by the day

That nedes cost he moot hymselfen hyde

And til a grove faste ther bisyde

With dredeful foot thanne stalketh Palamon.

(*The Canterbury Tales* Kn. 1475-79)

かくしてバラモンは一目散に逃げた。

夜は短く、夜明けが間近いので、

どうしても身を隠さなければならない。

そこで町のすぐそばの小さな森まで

バラモンはこわごわ抜き足差し足で忍び行った。

(下線引用者)

“The nyght was short and faste by the day” という文脈で用いられているこの “faste by” は、前置詞 “by” の目的語に “the day” という名詞を伴うため、「夜明けが間近だ」といった表現となる。“faste by” というコロケーションは、カンタベリー物語の中で計 10 例登場するが、興味深い点は、その 10 例のうち、ここで取り上げた 1 例以外すべて、“by” の目的語は場所や空間を表す名詞を伴い用いられているということである。本来は空間的近接の意味で用いる “fast by” というコロケーションが、この例では “by” の後ろに時を表す語が置かれ、比喩的に用いられているという事実に、時間的近接の意味領域と空間的近接の意味領域がメタファーの作用によって相互に交換可能な概念領域であることが示されている。空間と時間の概念領域の交換可能性について次に『ハムレット』(*Hamlet*) の中で用いられた hard の用法について考察する。

HORATIO

My lord, I came to see your father's funeral.

HAMLET

I pray thee, do not mock me, fellow-student;  
I think it was to see my mother's wedding.

HORATIO

Indeed, my lord, it follow'd hard upon.

HAMLET

Thrift, thrift, Horatio! the funeral baked meats  
Did coldly furnish forth the marriage tables.  
Would I had met my dearest foe in heaven  
Or ever I had seen that day, Horatio!  
My father!—methinks I see my father.

(*Hamlet* 1.2.176-184)

ホレーシオ

実は殿下、お父上のご葬儀を拝観しようと思ひまして。

ハムレット

からかつてはいけないな、学友じゃないか。  
母上のご婚礼を拝観しようと思ったのだろう。

ホレーシオ

そう言えばほとんど間もおかずに。

ハムレット

儉約、儉約だよ、ホレーシオ、そのために、  
葬式用のパイが冷たくなって婚礼の食卓を飾ったのだ。  
あのようなつらいめに会うぐらいなら、天国で  
憎い敵と会うほうがましだったぞ、ホレーシオ。  
父上が一父上の顔が見えるようだ。

(下線引用者)

引用はハムレットが母親の再婚に怒りを露わにする場面である。父親の葬儀が行われたばかりであるのに、間もなく母親が父親の実弟と再婚してしまったことに憤りを感じているハムレットが父親の葬儀を拝観しようと思ってやってきたと言うホレーシオに、そうではなくて母親の婚礼の儀を拝観しようと考えていたのだろうと言い放つ。そこでホレーシオが答えたセリフが、“Indeed, my

lord, it follow'd hard upon.”であるが、この“hard upon”の用例も、先に見た *Knight's Tale* における用例と同様、シェークスピア作品において唯一時間的な用法として転用された例である。シェークスピア作品中において、hard を近接の意味で用いる場合は“hard by”というコロケーションで、空間的な近接を表す意味で用いられる。しかし、ここでは“by”ではなく“upon”が伴われ、時間的な近接を意味する唯一の用例となっている。この用例からも、多くの場合、空間的な近接の意味で用いられている hard が時間的な意味合いにも転用されるというメタファーの作用、つまり空間と時間の概念領域の交換可能性が伺える。

#### 4.4 「空間的近接」と「迅速」の関連性

最後に、「空間的近接」と「迅速」の意味の関係性について考察する。以下の *Confessio Amantis* からの一節における fast の用法は意味の判定が困難な用例の一つに属する、多義的解釈を生む例である。しかし、この用例について深く考察することで、もっとも意味の近似性を見出すことが困難に思われる「空間的近接」と「迅速」の意味の間に存在する意味の連続性を見出すことができる。

Sche hath hir oghne bodi feigned,  
For feere as thogh sche wolde flee  
Out of hir lond: and whan that he  
Hath herd hou that this ladi fledde,  
So faste after the chace he spedde,  
That he was founde out of array.

(*Confessio Amantis* 7.3468-73)

そしてこのように手筈をととのえと、  
彼女は、恐怖のために  
国外に逃亡するふりをした。  
そこでこの女王が逃げたと聞いた彼は、  
彼女をあわてて追いかけたので、  
彼の軍勢は算を乱した。

(下線引用者)

この用例では“so faste”は“after chace”に対する強意語として考えることもできるが、動詞“spedde”を修飾しているとも考えられる。“chace”は名詞であり「追いかけている対象」という意味である。つまり、“so faste after the chace”で、彼が追いかけている対象である女王のすぐ後を追って、という空間的な近接、接近の意味でも取れるが、同時にその後に続く“he spedde”を修飾し、「大慌てで」といった意味にも解することができる。ここで重要な点は、“spedde”のような「迅速」の意味を含む動詞と、“after chace”という追いつく対象を表す前置詞句の両方がここでfastと共起しているという点である。

OEDのfastの語義発達に関する解説では、「迅速」の意味は“run a person hard”「ある人のすぐ近くに迫って走る」といった表現からも派生していると説明していたが、実際にこの用例における“he spedde faste after the chace”という連語関係では、追いつく対象に対する「接近」の意味、そして動詞の「急ぐ」という語義を強める意味、この双方の意味領域が重なりあうことにより、「速く」という速度をあらわす意味領域と「近くに、迫って」という空間的な近接の意味領域がメタファーを介して相互に関連しあっていることが明らかとなる。

## 5. 多義語に内在する性質

前章では異なる語義の間をつなぐメタファーおよびメトニミーの存在について考察を重ねた。本章ではそれらによって繋がる異なる意味領域が、放射状のカテゴリーとして、一つのまとまった意味のネットワークを構築していることを明らかにする。<sup>16</sup>

図1はfastにおける多義のネットワークを示したものである。fastの原義は“firmly”、“immovably”といった「固定」や「不動」の概念を表す意味であったが、そうした具象の意味がメタファーによって精神的意味領域にも転用され、中英語期になると、主に強意の副詞として多種多様な動詞を修飾し、ある行為を行う際の精神的な集中力や態度を強化する意味で用いられるようになる。同時に、中英語期では原義である「固定・不動」の意味から、メトニミーの作用により、「物理的な密着状態」を表す意味が派生する。そしてさらにその「物理的な密着状態」は、今度もまたメトニミーの働きによって、より広義である“close”といった「空間的な近接」を表すようになり、この「空間的な近接」における空間の意味が時間的な意味へとメタファーによって媒介され、“soon”といった「時間的な近接」の意味も表わすようになる。また、この「時間的な近接の概念」の中には、メト

図1:「fast」の放射状カテゴリー

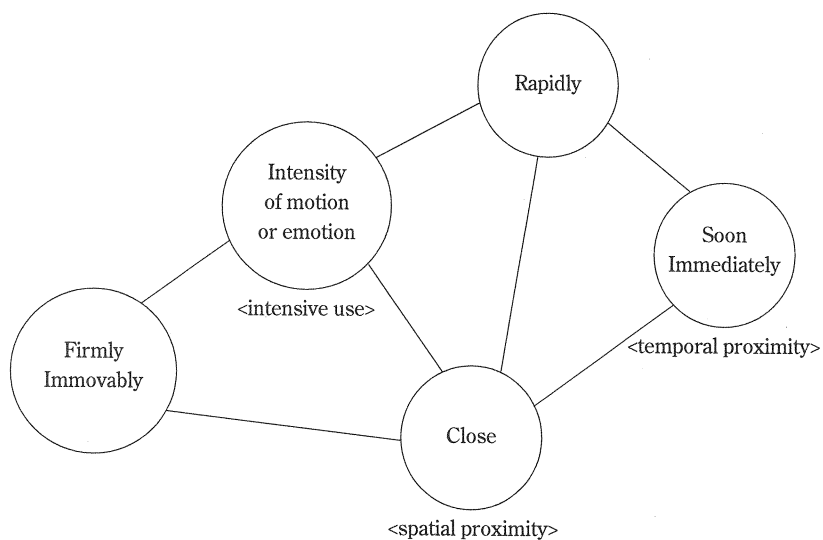
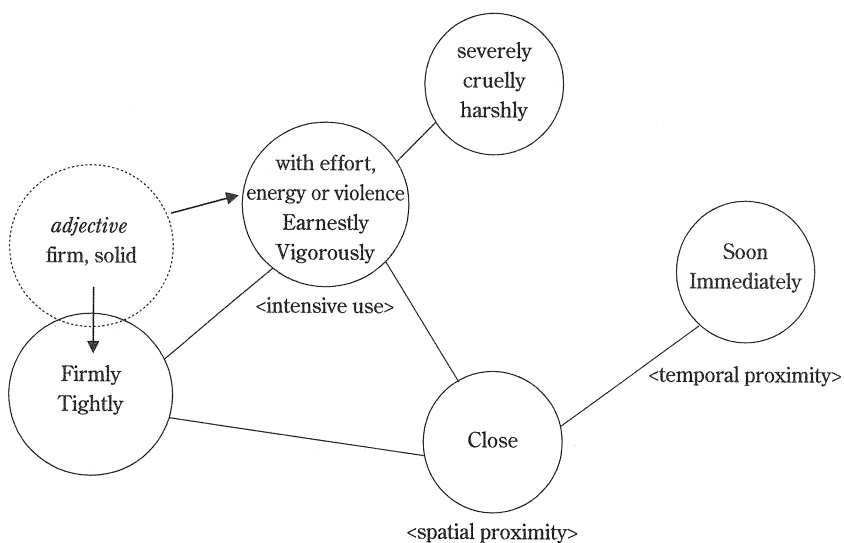


図2:「hard」の放射状カテゴリー





ニミーによって派生する「すぐに (soon)」といった意味と「速く (rapidly)」といった二つの意味が内包されている。

図2は hard における多義のネットワークを表した放射状のカテゴリーである。hard の場合は本来形容詞が先の発達であり、物質の硬さ、緊密な状態を表す “solid” や “firm” といった語義が原義である。この意味はメタファーによって、精神的意味領域に転移し、副詞では強意の副詞としての意味が最初に現れている。hard の場合、本来の「堅い」といったイメージから、メタファーの作用が働き、この強意の副詞の意味は次第に「努力、力、激しさを伴う」というニュアンスを含んだ “severely”, “cruelly”, “harshly” などの「厳しく、ひどく、過酷に」といった意味へと細分化を遂げる。またこの意味の派生とほぼ同時期に、“firmly”, “tightly” といった形容詞における原義の意味合いでも用いられるようになり、さらに副詞における本来の “severely”, “cruelly”, “harshly” といった意味は “die hard” などでは知られる「～し難い」といった意味を生む。こうした〈難しさ〉を孕む意味とは別に、その後 hard は、“close”, “soon” といった、空間的および時間的意味を持つようになる。この意味は形容詞における原義である “firm” からのメタファーおよびメトニミー、両方の作用により生まれていると考えられる。つまり、この hard における近接の意味の派生は、fast におけるその発達と同じ過程を経ているのである。

このように異なった意味同士の繋がりを、その派生過程を辿りながら考察すると、現代英語において最も一般的である fast の「速く」という語義は、「固定」、「不動」、「密着」の状態を表す fast 本来の語義に内在していた意味であるとも言えるだろう。また hard においても同様に、本来の「堅い」といった意味と強意表現としての「厳しく」、また “die hard” のような用法に見られる「～し難い」、そして “hard by” などの表現に現れる「近く」や「すぐに」といった意味は、相互にメタファーとメトニミーにより意味が転用されあう関係となっていることが理解できる。

## おわりに

意味変化は、品詞によってその諸相は大きく異なるだろう。例えば名詞であれば、それぞれの時代の社会的背景や、用いられた文脈によって、その意味や指示対象は大きく変化する。しかし、副詞の意味変化について考える際、もちろん名詞同様その意味は文脈などにも影響されうるが、本来は動詞や形容詞、また文全体を修飾する機能を持つ品詞の性質上、殊に英語という言語の特質が

反映された他の品詞とは異なる変化の性質が浮かび上がる。

fast と hard における通時的調査と意味領域の考察から明らかとなったことは、副詞の意味領域は本来の意味からメタファーやメトニミーによって広がっている範囲であるということである。多義的副詞の歴史的意味変化の特質として、こうした語に内在している意味のネットワークが、時間の経過に伴い明確な語義として現れてくるという側面があるといえる。一見すると、fast のように、現代英語における最も一般的な「速く」という語義と、その原義である「しつかりと」といった固定の概念に、かけ離れた印象を持つ副詞がある。hard であっても、原義であった「堅い」という意味と、空間的または時間的に「近く」という意味は、瞬時に意味の繋がりを見出すことは困難であるとも言えるかも知れない。しかし、通時的な調査を行うと、英語特有の統語構造とメタファー・メトニミーとの関連性が、副詞の意味変化に複合的な作用を及ぼしていることが明らかとなる。副詞の意味変化における一つの規則性は、今後より多くの副詞における史的な研究を通して明らかにしなければならないが、fast と hard という古英語から現代英語まで存続した英語本来語は、ある意味でプロトタイプ的な変化を経験している語として位置づけることができる。この二語の副詞が互いに同様の変化の過程を示しているという史的事実が示す一つの変化の普遍性は非常に意義深く重要なものである。

トローゴット初め、多くの主に文法化の現象を扱う研究者によって、意味変化には“unidirectionality”「単一方向性」があると提唱されてきた。そしてしばしばその「単一方向性」の議論は文法化のみならず、より一般的な意味変化の諸相の一つとして組み入れられてきた。しかし、副詞の場合、新たな意味の派生はメタファーおよびメトニミーの作用によって、ある意味領域が別の意味領域へと転用されながら起こっている。そして通時的事実が示すことは、意味変化における「単一方向性」ではなく、放射状カテゴリーの形成を伴う「双方向性」の変化の過程なのである。

## Notes

- <sup>1</sup> 意味変化におけるいくつかの規則性を多言語間において共通する、認知的な仕組みであると捉え、それを明らかにすることを目的とした研究が多く見当たすが、それらの多くは法助動詞の研究などが中心であり、文法化のようなより広い枠組みでの意味変化が論じられている傾向にある。しかしながら英語固有、および各品詞に特化した研究がなされていた 20 世紀初頭の研究結

果などが、しばしば文法化の現象と合わせて論じられることがあり、本論ではこうした問題を再考するとともに、英語に特有の意味変化、および副詞という品詞における意味変化を論じる。

- <sup>2</sup> *OED* における *hard* の項には第七義と第八義があるが、主要な意味ではないため、割愛している。
- <sup>3</sup> *OED* とは異なり、*MED* はその編纂方針として、詳細な語義区分を設けていることが特徴であるものの、その語義区分と意味の差異が、時に限定されすぎていてという感が否めない。本論考では、*MED* の詳細な語義区分と語義説明を一つの参考資料として位置付けている。
- <sup>4</sup> 編纂上の方針として語義配列を頻度順に行っている *MED* において、この「速く」という語義が最後に配置されていることは、*MED* ではこの語義を中英語において最も頻度が低い語義であると考えていることを意味する。しかしながら実際の使用例の調査をすると、チョーサーの *The Canterbury Tales* では *fast* が用いられた全 77 例のうち、「固定」の意味（第 I 義）が 10 例、「強意」の語義（第 II 義）が 31 例、「速く」という意味（第 III 義）が 18 例、「近く」という空間的近接の意味（第 IV 義）が 10 例、「すぐに」という時間的近接の意味（第 V 義）が 6 例であり、ジョン・ガワー (John Gower) の *Confessio Amantis* では、74 例中、第 I 義が 24 例、第 II 義が 19 例、第 III 義、第 IV 義が 8 例、第 V 義が 15 例である。ウィリアム・ラングランド (William Langland) の *Piers Plowman* では 34 例中、第 I 義が 9 例、第 II 義が 14 例、第 III 義が 9 例、第 V 義が 2 例であった。このように三つの作品における語義の分布状況を比較すると、*Confessio Amantis* では「速さ」を表す意味は比較的少ないのに対して、*The Canterbury Tales* や *Piers Plowman* では原義である「固定」を表す意味よりも「速く」という意味が多く用いられていることが分かり、実際の使用状況と *MED* の語義配列が表す頻度設定は必ずしも一致しない。
- <sup>5</sup> Baugh (2002) も現代英語の欠点の一つとして慣用句の多さを指摘する際、「go fast」と「stand fast」という二つの表現における *fast* の意味合いの矛盾性を取り上げている (14)。
- <sup>6</sup> スターンによるこの「permutation」という意味変化の捉え方について、トローゴットとダッシャーは意味同士の関連性におけるメトニミーの働きと非常に近い考え方であると評価している。Particularly interesting his analysis of what he calls “permutation”, which is closely related to the type of metonymy

- involving association. (67)
- <sup>7</sup> その一例として、ジーニアス英和大辞典（第3版）では、語義説明の冒頭部分における意味発達の経緯として、『「しっかり（走る）」→「早く（走る）」』という説明を与えている。おそらくこの説明は、*OED* における “to run hard” を誤って解釈したものであると考えられる。
- <sup>8</sup> この語用論的観点とは、語用論的強化を指す。発話者の語用論レベルの推論が、語義レベルにまで至り、習慣化するという考え方である。Traugott (1982) における while の議論などがその一例である。
- <sup>9</sup> こうした思考の経緯に意味派生の順序を求める考えは、スターンの見解全体を通して窺える (*Swift* 218-219)。
- <sup>10</sup> Stern (1921) では fast に関して、「速く」という迅速の意味が「近く」という近接の意味にも由来していると述べているものの、その用例、および同じような発達を遂げた副詞は見当たらないと述べている。With regard to faste, I have assumed that the sense of speed in relation to time arose also by a separate line of development, from the sense of proximity. The development is not instanced, and I have no good parallels. (203)
- <sup>11</sup> Stern (1975) では OE における用例に関して次のように説明している。The OE period is taken as a unit, since the literature is too scanty for the circumstance that a word is found only in late OE to have much importance. (188)
- <sup>12</sup> Mustanoja (1960) および Stern (1975) が述べているように、fast(e) は中英語期において、もっとも一般的に広く用いられた強意の副詞の一つであったが、この強意語としての使用は、15 世紀後半になると大きく減少している。強意語の通時的傾向を、Blake (1983) は以下のように述べている。There are many intensive adverbs in Shakespeare and, as we noted in the Introduction, intensives are among the more fleeting features of language. As vogue words they come and go quickly. It is not clear how far the many intensives Shakespeare used were common or how far they represent the striving after a linguistic effect. (108)
- <sup>13</sup> この研究の前提は、14 世紀後半を代表する 4 試作品、チョーサーの *The Canterbury Tales*、ガワーズの *Confessio Amantis*、ラングランドの *Piers Plowman*、そして *Sir Gawain and the Green Knight*、および初期近代英語を代表するシェイクスピアの全劇作品とソネットにおける fast と hard の用例

分析にあり、本論考では中でも顕著にメタファーとメトニミーの働きが表れている用例を取り上げ、メタファーとメトニミーの働きについて検討している。またメタファーとは異なる概念領域の間の類似性に基づくのに対し、メトニミーは単一の概念領域内における隣接性に基づくものである (Lakoff and Johnson を参照)。

- <sup>14</sup> *The Canterbury Tales* では、“firmly” の意味に分類される fast が 10 例あり、共起動詞は “binden” が 2 回、“shitten” が 4 回、“steken” が 1 回、“holden” が 2 回、“taken” が 1 回であり、どの動詞も動作の結果が固定や密着の状態を生むものである。そして文脈上も本作品の場合は物理的な固定の意味にとどまり、心理的な用法には分類されない。しかし、*Piers Plowman* では、固定の意味に分類される用例が 9 例あり、共起動詞は “holden”, “teien”, “feteren” が各 2 回、“binden”, “knitten”, “sette” が各 1 回用いられている。しかし *Piers Plowman* ではこの引用以外にも、「嚴重に (足枷をかける)」という “feteren” が用いられた用例や、「厳しく (縛りあげる)」と心理的態度が表れている “tien” が用いられた用法など、9 例中 4 例が物理的意味領域と心理的意味領域の両方を表している、またはその二つの領域の中間的意味として現れている。
- <sup>15</sup> Bybee (1994) らは時間的意味と空間的意味について、時間的意味が次第に強勢になる理由を次のように述べている。The temporal meaning that comes to dominate the semantics of the construction is already present as an inference from the spatial meaning. When one moves along a path toward a goal in space, one also moves in time, the major change that takes place is the loss of spatial meaning. (269) このような空間用語からの時間用語の発達については Traugott (1978) を参照。
- <sup>16</sup> Lakoff (1987) をはじめ、放射状カテゴリーという場合、「中心と周辺スキーマに基いて想定されたカテゴリーのモデル」(辻 2002: 238) と一般に説明されるが、プロトタイプのメンバーは常に一つではなく、複数存在する場合や、プロトタイプのメンバーの移行が見られる場合があること、そして意味が原義から枝分かれした以降でも、それぞれの意味はすべてメタファーまたはメトニミー、あるいはその双方によって関連性を持つことが、本論考において検証した fast と hard の放射状カテゴリーにおいても見受けられる、副詞の放射状カテゴリーの特質であるといえる。

## Works Cited

### Primary Sources

- Chaucer, Geoffrey. *The Canterbury Tales. The Riverside Chaucer*. 3<sup>rd</sup> ed. Ed. Larry D. Benson. Oxford: OUP, 1998. Print.
- Gower, John. *Confessio Amantis. The English Works of John Gower*. Ed. G. C. Macaulay. London: Published for the EETS, 1900-1901. Print.
- Langland, William. *Piers Plowman. Plowman: Parallel-Text Edition of the A, B, C, and Z Versions*. 2 vols. Ed. A. V. C. Schmidt. London: Longman, 1995-2008. Print.
- Shakespeare, William. *Hamlet. The Riverside Shakespeare*. Ed. Evans G. Blakemore. Boston: Houghton, 1974. Print.
- Sir Gawain and the Green Knight*. Ed. J. R. R. Tolkien and E. V. Gordon. 2<sup>nd</sup> ed. Rev. Norman Davis. Oxford: Clarendon, 1967. Print.

### Secondary Sources

- Baugh, Albert Croll and Thomas Cable. *A History of the English Language*. 5th ed. London: Routledge, 2002. Print.
- Blake, N. F. *Shakespeare's Language: An Introduction*. London: Macmillan, 1983. Print.
- Bradley, Henry. *The Making of English*. London: Macmillan, 1904. Print.
- Bybee, Joan L., Revere Perkins, and William Pagliuca. *The Evolution of Grammar: Tense, Aspect, and Modality in the Languages of the World*. Chicago: U of Chicago P, 1994. Print.
- Coghill, Naville, trans. *The Canterbury Tales*. Harmondsworth: Penguin, 1951. Print.
- Davis, Norman, et al. eds. *A Chaucer Glossary*. Oxford: OUP, 1979. Print.
- Kurath, Hans, et al. eds. *Middle English Dictionary*. Ann Arbor: U of Michigan P, 1952. Print.
- Lakoff, George. *Women, Fire, and Dangerous Thing: What Categories Reveal about the Mind*. Chicago: U of Chicago P, 1987. Print.
- Lakoff, George and Mark Johnson. *Metaphors We Live by*. Chicago: The U of Chicago P, 1980. Print.

- Matsushita, Tomonori, ed. *A Glossarial Concordance to William Langland's the Vision of Piers Plowman, the B-Text*. Tokyo: Yushodo, 1998. Print.
- Mustanoja, Tauno F. *A Middle English Syntax. Part 1. Parts of Speech*. Helsinki: Société Néophilologique, 1960. Print.
- Pickles, J. D. and Dawson, J. L., eds. *A Concordance to John Gower's Confessio Amantis*. Cambridge: Brewer, 1987. Print.
- Stern, Gustaf. *Meaning and Change of Meaning: With Special Reference to the English Language*. Westport, Conn: Greenwood, 1975. Print.
- . *Swift, Swiftly, and Their Synonyms; A Contribution to Semantic Analysis and Theory*. Göteborg: Elanders boktr, 1921. Print.
- Simpson, J. A. and Weiner, E. S. C., eds. *The Oxford English Dictionary*. 2nd ed. Oxford: Clarendon, 1989. Print.
- Tatlock, John S. P. and Arthur G. Kennedy. *A Concordance to the Complete Works of Geoffrey Chaucer and to the Romaunt of the Rose*. Washington: Carnegie Institution of Washington, 1927. Print.
- Traugott, Elizabeth Closs. "On the Expression of Spatio-Temporal Relations in Language". Ed. Joseph H. Greenberg, Charles A. Ferguson, and Edith A. Moravcsik, *Universals of Human Language*. vol. III. Stanford: Stanford UP, 1978. 369-400. Print.
- . "From Propositional to Textual and Expressive Meanings: Some Semantic-Pragmatic Aspects of Grammaticalization". Ed. Winfred P. Lehmann and Yakov Malkiel, *Perspectives on Historical Linguistics*. Amsterdam: Benjamins, 1982. 245-271. Print.
- Traugott, Elizabeth Closs and Richard Dasher. *Regularity in Semantic Change*. Cambridge: Cambridge UP, 2002. Print.
- ガワー, ジョン. 『恋する男の告解』伊藤正義訳. 東京, 篠崎書林, 1980.
- シェイクスピア, ウィリアム. 『シェイクスピア全集』小田島雄志訳. 1-7. 東京, 白水社, 1973-1980.
- チョーサー, ジェフリー. 『カンタベリー物語: 全訳』笹本長敬訳. 東京, 英宝社, 2002.
- 辻幸夫. 『認知言語学キーワード事典』東京, 研究社, 2002.
- ラングランド, ウィリアム. 『農夫ビアースの夢』柴田忠作訳. 東京, 東海大学出版社, 1981.

## Semantic Expansion and Its Limitation in *fast* and *hard*:

### A Study on the Diachrony and the Semantic Structure

---

Sayaka Ogasawara

---

The contentions of this paper are that semantic change in adverbs is inherently limited to the extent of meaning, not by the order of occurrence, and that semantic change in adverbs occurs between two or three semantic domains, creating a “radial category”; meanings appear “bidirectionally” rather than “unidirectionally.” This paper mainly focuses on the semantic proximity of *fast* and *hard*, comparing the diachronic semantic change in both adverbs.

Gustaf Stern (1975[1931]) drew our attention to the issue of meaning. Stern's primary purpose was to establish a theory and the classification system for various types of semantic change. His special interest was in the type of change evidenced by RAPIDLY>IMMEDIATELY. Stern (1921) claimed that the words which acquired the sense “quickly” before 1300, later developed the meaning “immediately,” and that no adverbs meaning “quickly” changed in this way after 1300. Elizabeth C. Traugott and Richard Dasher (2002) cited his study and expanded the idea to the discussion of “unidirectionality” in semantic change.

The theoretical interests of this paper are several-fold: it shall discuss the plausibility of the idea of “unidirectionality” in semantic change, paying particular attention to diachronic semantic change in *fast* and *hard*, the adverbs which have



the meanings "rapidness" and "intensity", showing that they underwent parallel semantic change resulting in similar semantic structure. In addition, among the instances in which these adverbs are used, we will take a close look at some meanings which oscillate between two semantic fields. Examining the cases in which an adverb presents unclear or dual meanings, we will see how metaphor or metonymy functions in new meaning generation, and what is actually happening when the initial meaning changes into another.

For the development of meanings in *fast*, we can refer to some previous studies. It should be noted here that all the studies deal with only one aspect of semantic change of *fast*, from its original meaning "firmly" to "rapidly". The studies all assert that the modal function of the original meaning "firmly" passed into use as an intensifier, and when used to intensify motion verbs, such as "run", *fast* came to mean "rapidly". This was the limit of study into the problem of semantic change before the emergence of cognitive theory concerning metaphor and metonymy.

This paper will mainly shed light on the usage of *fast* in Middle English, the period in which most new meanings generated, and several intriguing usages showing unclear or "fuzzy" meaning existed. These unclear meanings often appear between two possible modified-verb candidates, or when the context itself leads to ambiguous circumstances in which to decipher meaning. Examining the condition which generates the unclear or oscillating meanings, as well as inspecting the diachrony, we will propose that the metaphor and metonymy have the power to change meaning. We will also demonstrate that semantic change in adverbs is not limited by the order of new meaning development, but inherently limited by its original meaning, and that to that extent semantic change in adverbs occurs "bidirectionally".